

一般口演

佐賀藩の『医師免札姓名録』

について—その二—

酒井シヅ

安政二	十	九七	八四/一三
三	六	六一	五四/七
四	十四	六〇	三九/二一
五	九	五二	四〇/一二
(計)		六四一	五二五/一一六

ついで専門科別人数を調べた。結果は次の通りである。

佐賀藩が嘉永四年(一八五二)から医師免札制度を実施したこととその発足に至るまでの経緯は、昭和五四年の総会で報告した。今回はその制度に則って発行された免札の動向について、姓名録を調査し、その結果を報告する。姓名録には発行年月日、専門科名、姓名、身分、年齢、師匠名、居住地(村医、町医のみ)が記してある。そこでまず、年代順に免札発行がどう変化したかについて調べた。結果は次の通りである。

年度	回数	人数	身分別人数(士/他)
嘉永四	一	二六	二六/〇
五	二	三八	三八/〇
六	十二	一六九	一三二/三七
七	十九	一三八	一一二/二六

科目	人数
内科	三八四
外科	五六
針科	六四
眼科	一三
産科	九
蘭科	一
兼科	一〇四

兼科は内科・外科を兼ねる者が圧倒的に多いが、小児科・口科が内科を兼ねている。

師匠はここでは一名だけ記している。この時代、何人かの師匠に入門するのが通例であったことを考え合せると、

ここに記している人は、本人がもっとも多くを学んだことを意味するのだろう。師匠として名前が出る頻度の多いものは次の通りである。牧春台（二名）、大石良英（二〇名）、野口槐庵（二四名）、嶋本龍嘯（二四名）らである。いずれも佐賀藩医である。他に藩外の医師に師事した者もいるが、その数は少ない。

免札を受けた者の年齢についての調査結果は次の通りである。

年度	二十代	三十代	四十代	五十代	六十代以上
嘉永五	〇	一三	一一	四	二
六	一二	四三	五九	三九	一一
七	二五	五三	二八	一五	七
安政二	二五	二四	二六	一三	九
三	二四	一六	一四	三	二
四	二九	一二	一六	〇	一
五	二八	二五	四	六	三
(計)	一四四	一三三	一六〇	八〇	三五

五十代になると、その数が急減する。

（順天堂大学医史学研究室）

幕末における医学研修

深瀬 泰 且

昨年第八四回総会において、明治初年の医師履歴書綴りである『当区医務取調書上』と、『医者履歴明細書』について報告したが、そのこまかい内容についてはふれるところが多かった。本総会においてはその内容について考察を加え、あわせて飛騨国（『筑摩県医師連名簿』および三河国『明治初期豊橋医師履歴』）の同様の文書についても検討した。

川崎市域の両文書には、それぞれ一八名、一六名の医師が記載されているが、一五名は両文書に共通しているもので、計一九名の医師の名が見出される。この一九名について、氏名、年齢、住所、医学研修の開始時期、その指導者、研修の内容（用いた医書名）、開業した時期などがしるされている。

同一人物について両文書を比較すると、その経歴に差異